

平成 21 年 6 月 16 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18320016

研究課題名（和文） 古代インドの環境論

研究課題名（英文） Ecological Thought in Ancient India

研究代表者

原 實 (HARA MINORU)

財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：40011283

研究成果の概要：平成 18 年度より 3 年間、「古代インドの環境論」と題し、同学の士を誘って我々の専攻する学問が現代の緊急課題とどの様に関連するかの問題を、真剣に討究する機会を持ち得た事は極めて貴重な体験であった。外国人学者を交えて討論を重ねる間に、我々の問題意識はインド思想や佛教の自然観、地球観にまで拡がって行ったが、それらは現代の環境破壊や無原則な地域開発に警告する所、多大なるものがあった。「温故知新」と言われる所以である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
2007 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2008 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
年度			
年度			
総計	12,400,000	3,720,000	16,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・印度学仏教学

キーワード：樹木、擬人法、生命観、不殺生、慈悲

## 1. 研究開始当初の背景

熊谷龍子の歌集「森は海の恋人」の中には森と海が川によって結ばれており、森から流れ来る水が沿岸漁業を育んでいる事情が歌われている。人間による森林の心なき濫伐が如何にそこに住む動植物のみならず、広く海に至るまで環境を破壊する事は近時識者の関心を呼んでいるが、この様な状況の下に在って古典インドの文献研究に従事している研究代表者は、予てから自分の専攻する学問が一体どの様にして自分の生きている現代日本と結びつくかを考えていた。併し安易に学問と実用を結びつける事は厳密な文献学

者の潔しとしない所であるので、時に思案に暮れた事があった。唯、不殺生というインド特有の概念は動物愛護の思想に関連するので、何時の日かこの問題を徹底的に解明したいと心掛けていた。

## 2. 研究の目的

上述の問題意識から研究代表者は同学の士を誘って一堂に会し、夫々の研究成果を持寄って共同研究を企画した。意見交換の間に古代インドの「不殺生」のみならず、東アジア佛教の「草木国土悉皆成仏」、インド医学の「生命観」、「樹木崇拜」、「樹木功德」、「森

林濫伐の罪」等は凡て悉く「環境論」に関連する事が明らかになった。これらの諸問題を踏まえ、互いに幾つかの共通点を見出した我々は、ここにこの問題を総合的に研究することとなった。

### 3. 研究の方法

研究の方法は飽くまで原典に忠実に議論を展開する事に尽きるが、研究課題や研究対象によって方法論が自ずから異なって来る道理である。併し人間とそれを取り巻く環境世界との「調和、共生」の思想は我々研究者の関心の凡てに共通しており、人間の側からする動物、植物の愛護が問題の究極に位する事が明らかになった。それは又大乗佛教の「慈悲」の思想に関連している事が新たに発見された。我々一同がこの共通項に基づいて夫々の方法論を確立し得た事は極めて有益であった。

又古代インドの大地に関する神話伝説は、大地をしばしば擬人化してその悩み苦しみを物語っているのが、我々はそこに彼等の「地球観」の一端を垣間見る事が出来る。

### 4. 研究成果

過去三年、我々は定期的に集会を持ち、毎回発表者を指定して論文発表の義務を課し、それに基づいて討論と質疑応答の機会を持った。それらの成果は2008年9月に開催された日本印度学仏教学会にパネル討論の一つとして採択された事であった。聴講者130人の前で5人の者が夫々の研究成果を披露したが、聴講者の中から活発な質問を呼び、我々の気がつかなかった問題の提起があった。更に来日した海外の研究者の講演は、我々の視野を広げるに貢献した。これらの新しい問題提起は今後の研究の指針となるであろう。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計30件)

1. 岡田 真美子、「環境人間学的「ため池学」事始め—黎明期の履歴」、『平成20年度研究報告 環境人間学部開設10周年記念論文集』(兵庫県立大学環境人間学部学術情報館編集委員会)、2009年3月、163-180、査読有。
2. 松村 淳子、‘The Legend of Prince Sāli in Post-canonical Pāli Literature: An evidence of the Sihala□□hakathā tradition inherited by medieval Sri Lankan

Buddhists’、『国際仏教学大学院大学研究紀要』、第13号、2009年3月、(印刷遅れのためページ数未定)、査読有。

3. 清水 洋平、「パーリ三蔵にみられる菩提樹とその供養」、『東海佛教』第54輯、2009年、(現在、念校済み)、査読有。

4. HARA, Minoru (原 實)、‘Hindu Concept of Sleep’, “Journal of the Pali Text Society”, Vol. 8, 2008, 130-163, 査読有。

5. 原 實、「大地(1)—古代インドの地球観」、『超域アジア研究報告—付 歴史文化研究—』、第6号、2008年、53-80、査読有。

6. 田辺 和子、「タイ国アユタヤ期の寺院壁画に見られる共存の世界」、『印度学仏教学研究』第57巻第1号、2008年、566-559、査読有。

7. OKADA, Mamiko (岡田真美子)、Environmental Issues and Buddhism’s Potential, Dharma World for Living Buddhism and Interfaith Dialogue., Vol. 35, July-September 2008, 26-30、査読有。

8. 松村 淳子「南北両伝の施身聞偈説話—Dhammasondaka 王物語と雪山婆羅門物語—」『2008 第4次韓国仏教学結集大会論集』、2008年5月15日、651-657、査読有。

9. 末木文美士、「宗教国家は可能か——日蓮『立正安国論』、『考える人』、26号、2008年、194-203、査読無。

10. 末木 文美士、「脱構築から再構築へ——道元『正法眼蔵』、『考える人』、25号、2008年、192-201、査読無。

11. 北田 信、「インド・ベンガル地方の吟遊詩人パウルの胎生論」、『死生学研究』、第10号、2008年、88-118、査読有。

12. 岡田 真美子、「宗教と環境問題の関わり方について」、『宗教と現代がわかる本2008』、2号、2008年、128-131、査読有。

13. 木村 清孝、「『華嚴経』と華嚴教学—現

代的視点からの再検討一」、『東洋の思想と宗教』、第25号、2008年、178-191、査読無。

14. 田辺 和子、「タイ所伝羽衣説話とその民族造形」、『アジア民族造形学会誌』、8巻、2008年、査読有。

15. HARA, Minoru (原 實), A Note on Vinaya, The Journal of Pali Text Society, Vol. XXIX, 2007, 285-311, 査読有。

16. 原 實、「古代インドの草木観(2)」、『超域アジア研究報告—付 歴史文化研究—』、第5号、2007年、81-107、査読有。

17. 原 實、「書評：P. オリヴェル著『マヌ法典(批判的校訂と翻訳)』」、『東洋学報』、89-3、2007年、29-35、査読有。

18. 川崎 信定、「『チベットの死者の書』と日本の四十九日中陰回向」、『東洋学研究』別冊・「日本における死への準備教育—死の実存的把握をめざして—」、2007年、123-141、査読有。

19. 岡田 真美子、「環境宗教学のすすめ(3) 水に祈る行事を絶やさぬ叡智に学ぶ」、『寺門興隆』、2007年3月号、2007年、96-101、査読無。

20. 岡田 真美子、「環境宗教学のすすめ(2) 物や動物の供養が環境をよくします」、『寺門興隆』、2007年2月号、2007年、102-108、査読無。

21. 岡田 真美子、「環境宗教学のすすめ(1) お寺から美しい日本をつくろう」、『寺門興隆』、2007年1月号、2007年、62-67、査読無。

22. 今西 順吉、「『バガヴァッド・ギーター』(II.20) 注解」、『国際仏教学大学院大学研究紀要』、11号、2007年、1-40、査読有。

23. デレアヌ・フロリン、「『瑜伽師地論』の部派帰属とその思想背景について」、『東洋の思想と宗教』、24号、2007年、1-12、査読有。

24. DELEANU Florin, 'Spiritual

Cultivation and Awakening in the Sravakabhumi', "Transactions of the International Indology Conference, Goa (India) 7-10 February 2007", 2007, 1-17, 査読有。

25. HARA, Minoru (原 實), 'A Note on the Sanskrit Word andha', "Indo-Iranian Journal", 49, 2006, 273-303, 査読有。

26. 原 實、「古代インドの草木観」、『超域アジア研究報告—付 歴史文化研究—』、第4号、2006年、46-93、査読有。

27. 今西 順吉、「大乘經典の成立根拠としてのブッダとその教え—法華経を一事例として」、『仏教学』、48号、2006年、1-18、査読有。

28. 松村 淳子、「Mahabodhivamsa 研究序説—スリランカ中世パーリ文学研究方法論」、『神戸国際大学紀要』、第71号、2006年、1-13、査読有。

29. SHIMIZU, Yohei (清水 洋平), 'Problems in the Interpretation of the Bodhi Trees of the Seven Buddhas of the Past—with a focus on the pu□□arīka bodhi tree of Sikhī Buddha-', "Sārada", Part II. vol.6, 2006, 査読有。

30. 岡田 真美子、「虫送りのこころ —ひとり勝ちと棲み分け共生」、『在家佛教』、2006年7月号、2006年、36-45、査読無。

[学会発表] (計13件)

1. デレアヌ・フロリン, 'Sedi, Vidi, Vici: A Brief Introduction to Meditation in Indian Buddhism', Imag(in)ing the Buddhist Brain シンポジウム, 2009年3月20日, Leiden University Institute for Brain and Cognition (オランダ)

2. Kimura, Kiyotaka (木村清孝), 'Transfiguration, Transformation, Change in Quality and Restoration of Buddhism in

East Asia', Conference on Buddhism across Asia Institute of Southeast Asian Studies, 17 Feb. 2009, Orchard Hotel (Singapore).

3. 松村 淳子、"Two Apocryphal Jātaka Stories in Sri Lanka: On their connection to Mahayana Buddhist versions with special reference to the Tamamushinozushi of Japan," The 3rd International Conference of Sri Lanka Association for the Buddhist Studies, 2008年12月9日, アヌラダプラ: Buddhasravaka Bhiksu University (スリランカ).

4. デアヌ・フロリン, 'Meditative Practices in the *Bodhisattvabhūmi*' (26 pages), The Yogācārabhūmi and the Yogācāras シンポジウム, 2008年10月12日, Seoul (韓国)

5. 北田 信、「肉体の秘密～ベンガルの吟遊詩人バウルの胎生論とインド古典文学」、南アジア学会第21回全国大会、2008年9月28日、東洋大学

6. 原 實 (代表者)、第5パネル「仏教環境論と現代」、日本印度学仏教学会第59回学術大会、2008年9月5日、愛知学院大学

7. 北田 信、「真夜中に咲く花～仏教タントラ修行歌集チャリヤーパダ」、日本印度学仏教学会第59回学術大会、2008年9月4日、愛知学院大学

8. 清水 洋平、「パーリ三蔵にみられる菩提樹とその供養」、東海印度学仏教学会第54回学術大会、2008年7月5日、名古屋大学

9. 松村 淳子 "The Legend of Prince Sāli in Post-canonical Pāli Literature: Evidence of the Ancient Literal Tradition Inherited by Medieval Sri Lankan Buddhists," The XVth Congress of the International Association of Buddhist Studies, 2008年6月24日, アトランタ: エ

モリー大学.

10. 松村 淳子 「南北両伝の施身聞偈説話」、第4次韓国仏教学結集大会、2008年5月17日、ソウル: 東国大学校。
11. 末木 文美士, 「四国遍路の形成」、日本印度学仏教学会、2007年9月5日、四国大学。
12. Florin Deleanu, 'Between State Control and Neglect: Nuns in Ancient and Early Mediaeval Japan', First International Congress on Buddhist Women's Role in the Sangha: Bhikshuni Vinaya and Ordination Lineages, 18-20 July 2007, Hamburg University
13. HARA, Minoru (原 實), 'Hindu concept of Sleep', 第13回国際サンスクリット学会、2006年7月, Edingurugh (U.K.)

〔図書〕 (計13件)

1. 末木 文美士、トランスビュー、『鎌倉仏教展開論』、2008年、326頁。
2. 川崎 信定 (勝又俊教と共著)、真言宗豊山派、「仏教綱要」(『新仏教綱要』第六巻)、2008年11月、1-213頁。
3. 落合 俊典、「日本古写一切経中の唯識二十論後序」(国際仏教学大学院大学・学術フロンティア実行委員会編『仏教文献と文学』)、2008年9月、97-116 (xiv 238頁)。
4. 岡田 真美子、昭和堂、『地域再生とネットワーク』、2008年、286頁。
5. 岡田 真美子、東信堂、「地域づくりと実践的学問—地域ネットワークの継承と再生を目指して」(桑子敏雄編『日本文化の空間学』)、2008年、134-149 (xvi 252頁)。
6. HARA, Minoru (原 實), The Adyar Library and Research Centre, "Tapas in the Bhagavadgita (The Adyar Library Pamphlet Series No. 61)", 2007, vii-ix 38.

7. HARA, Minoru (原 實), Austrian Academy of Sciences Press, 'Weapons of Virtue' ("Expanding and Merging Horizons - Contributions to South Asian and Cross-Cultural Studies in Commemoration of Wilhelm Halbfass", ed. by Karin Preisendanz.), 2007, 613-627(xiii 732).
8. 川崎 信定 (吉水千鶴子と共著)、財団法人東洋文庫、『西藏仏教宗義研究第八巻 トゥカン『一切宗義』インド思想と仏教の章 (翻訳・研究)』(Studia Tibetica No. 43)、2007年、ii 202頁。
9. 末木 文美士、岩波書店、『他者／死者／私』、2007年、241頁。
10. 末木 文美士、岩波書店、『日本宗教史』、2006年、242頁。
11. 岡田 真美子、春秋社、「環境の時代における死」(中村生雄編『シリーズ〈思想の身体〉死の巻』)、2006年、127-154 (vii 254頁)。
12. 岡田 真美子、佼成出版社、「環境問題における仏教の可能性(環境)」(末木文美士編『現代と仏教 いま仏教が問うもの、問われるもの』)、2006年、52-66 (299頁)。
13. 岡田 真美子、昭和堂、「講の合力」「聖域と水」(岡田真美子編著『地域をはぐくむネットワーク』)、2006年、3-22/115-132 (224頁)。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

原 實 (HARA MINORU)  
財団法人東洋文庫・研究部・研究員  
研究者番号：40011283

### (2) 研究分担者

川崎 信定 (KAWASAKI SHINJO)  
財団法人東洋文庫・研究部・研究員  
研究者番号：00072538

### (3) 連携研究者

木村 清孝 (KIMURA KIYOTAKA)  
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授  
研究者番号：40140355

末木 文美士 (SUEKI FUMIHIKO)  
東京大学・人文社会系研究科・教授  
研究者番号：90114511

岡田 真美子 (OKADA MAMIKO)  
兵庫県立大学・環境人間学部・教授  
研究者番号：40185450

ユベール デュルト (HUBERT DURT)  
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授  
研究者番号：20288070

田辺 和子 (TANABE KAZUKO)  
財団法人東方研究会・研究員  
研究者番号：20217102

落合 俊典 (OCHIAI TOSHINORI)  
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授  
研究者番号：10123431

デレアヌ フロリン (DELEANU FLORIN)  
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授  
研究者番号：10271404

松村 淳子 (MATSUMURA JUNKO)  
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授  
研究者番号：10239080

今西 順吉 (IMANISHI JUNKICHI)  
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授  
研究者番号：70000594

津田 眞一 (TSUDA SHIN'ICHI)  
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授  
研究者番号：60124301

(4) 研究協力者

北田 信 (KITADA MAKOTO)  
財団法人東方研究会・研究員

清水 洋平 (SHIMIZU YOHEI)  
日本学術振興会・特別研究員

金子 奈央 (KANEKO NAO)  
武蔵野大学・非常勤講師